

今日の説教のポイント<マタイによる福音書 27 章 32~56 節>

①十字架上でイエス様の悲痛な叫び? どう考えたらいいのか?

イエス様の御苦しみを思い巡らすためには聖書を読まなければなりません。しかし、イエス様が十字架に向かわれる箇所を読めば御苦しみの内容は分かりますが、その意味まで分かるとは言えません。十字架上でイエス様が、「わが神、わが神、なぜ私をお見捨てになったのですか」と大声で叫ばれたとあります(27:46)。最後になってイエス様は父なる神様を信じられなくなったのでしょうか? そうだとすると、イエス様のこれまでの言動は全て空しくなるのではないのでしょうか? いいえ、そうではありません。これを聞いた人々も、これを記し残したマタイも、これが詩編 22 編の出だしの言葉であることを知っているのです。詩編 22 編は苦しみの中に置かれた信仰者の神様に救いを求める叫びから始まります。それがイエス様の叫ばれた言葉と全く同じなのです。しかし、この詩編で重要なことは、詩の後半では「どんなに苦悩が大きくとも、私はそれでもあなた(神様)を信じ讃えます」と語って終えることです。イエス様はその詩編を十字架の上で叫ばれたのです! エチオピアの高官は、「手引きしてくれる人がいなければ、(聖書の意味が) どうして分かりましょう」と言い、フィリポにイザヤ書 53 章の意味を解いてもらいました(使徒言行録 8 章 31 節)。私たちもそれに倣いましょう!

②救いを問題とする時、その救いの内容から考えなければならない!

マタイは、イエス様を嘲笑った人々が、「イエスは救いを語ったくせに、自分自身をすら救い出せない」と揶揄したことを繰り返し語ります。私たちはそこで救いについて思い巡らさなければなりません。主イエスと彼らの救いについての理解の違いを、本当の救いとは何かをです。長血の女をイエス様が癒された場面では、「救う」と訳されたギリシア語が同時に「治す」と訳されています(9:21, 22)。本当の救いとは、この長血の女のように、これからの人生でどんな苦難が襲って来ても、このイエス様を思いながら生きていける幸いを与えられることなのです!